



A あ O お B ば A

千葉市立青葉病院
広報紙

Vol.38

令和7年6月1日発行
(年2回発行)

わかりやすく納得のいく医療を 心のこもった笑顔で



発行/千葉市立青葉病院 〒260-0852 千葉市中央区青葉町1273-2 TEL.043-227-1131(代) FAX.043-227-2022 <https://hospital.city.chiba.jp/aoba/>

千葉市民の「できる」を支える！ 千葉市立青葉病院リハビリテーション科の挑戦

「病気やケガで入院しても、諦めないでほしい。私たちは、患者さんが再び自分らしい生活を取り戻せるよう、全力でサポートします。」

青葉病院のリハビリテーション科は、理学療法士11名、作業療法士8名、言語聴覚士2名、そして2名の医師からなる、専門性の高いチームです。急性期リハビリテーションに不可欠な病態理解と、それぞれの専門性を活かし、患者さん一人ひとりに合わせたリハビリテーションを提供しています。

専門チームが早期介入で「動ける」をサポート

急性期病院では、手術や薬物療法といった治療が中心となりますが、リハビリテーションをおろそかにしてしまうと、せっかく病気が治っても身体機能が低下し、日常生活に戻ることが難しくなることがあります。これを「廃用症候群」と呼びます。

私たちはこのような事態を防ぐため、入院後できるだけ早くリハビリテーションを開始し、より多くの患者さんにリハビリテーションを提供できるよう、病院全体で連携を取り、早期のリハビリテーション開始を推進しています。そ

の結果、入院してからリハビリテーションが開始されるまで日数が年々短縮され、リハビリテーションを実施できる患者さんの数も増えてきています。(図1) その結果、疾患治療後の体力低下を最小限に抑えることにつながっています。

近年、多くの病気の治療ガイドラインで、リハビリテーションによる運動療法が強く推奨されています。早期からの適切なリハビリテーションは、単に身体機能を回復させるだけでなく、病気の進行を抑制する効果も多く報告されています。

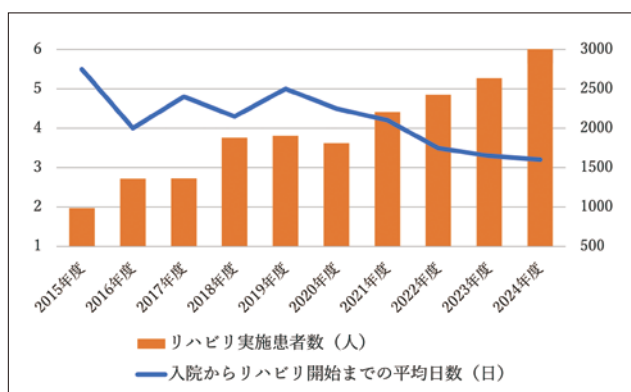


図1. 直近10年間ににおけるリハビリテーション開始までの日数とリハビリテーション実施患者数の推移

専門性の高いリハビリテーションで、再び動ける喜び、食べる喜びを

心筋梗塞などで入院された患者さんの中には、退院後の運動や職場復帰に不安を感じる方

も少なくありません。そこで当院では、心筋梗塞で入院し、退院した後の外来心臓リハビリテーションを提供しています。心臓リハビリテーション指導士などによる専門的な運動療法や生活指導を通じて、心機能の改善を安全かつ最大限にサポートし、患者さんが安心して社会生活に戻れるよう支援しています。

また、高齢化により入院患者さんに何らかの嚥下障害を抱えている場合が多くなってきました。そのため、当院のリハビリテーション科は摂食嚥下障害に対しても力を入れています。「postim[®]」や「ジェントルスティム[®]」といった治療器を用いたり、嚥下内視鏡による評価を行ったりすることで、全ての患者さんが安全に、そして美味しく食事ができるようになることを目指しています。

さらに、当院では、InBody[®]（体成分分析装置）を用いて患者さんの筋肉量や体脂肪量などを測定し、サルコペニア（筋肉量の減少）の診断を行っ

ています。サルコペニアと診断された患者さんには、個別の運動プログラムを作成し、運動療法を提供することで、筋肉量の維持・向上をサポートしています。

多職種連携で患者さんの「生活」を見据えた目標を共に目指します

患者さんにとって、リハビリテーションは単に機能回復を目指すだけでなく、「元の生活に戻りたい」という強い願いを実現するためのものです。リハビリテーション科では、その思いに応えるため、リハビリテーション科医師、看護師、リハビリテーション療法士、医療ソーシャルワーカーなどが週に一度カンファレンスを行い、患者さんの状態や目標について情報を共有しています。

このカンファレンスでは、不要な安静を避け、患者さんのADL（日常生活動作）が順調に改善しているかを確認し、退院後の生活を見据えた具体的な運動機能の目標を設定しています。患者さんご自身やご家族の皆様も、目標達成に向けて積極的にリハビリテーションに取り組んでいただくことが、非常に重要です。

入院中も積極的に「動く」ことを応援します

近年、リハビリテーションの分野では、新しい技術や治療法が次々と登場していますが、当院では、基本的ながらも重要な取り組みを徹底しています。その一つが、入院中の患者さんに対して、可能な範囲で積極的に院内歩行を促すことです。安静にしていることが必ずしも良いとは限りません。早期から体を動かすことで、体力や筋力の低下を防ぎ、スムーズな回復につながります。



図2. 心臓リハビリテーション



図3. 多職種チームによる嚥下内視鏡検査と評価



図4. リハビリカンファレンスの様子



図5. 歩行前段階のベッド上運動療法



図6. 歩行器、療法士介助による歩行訓練



図7. 病棟内での歩行訓練

市民へのメッセージ

当院のリハビリテーション科は、急性期病院という特性上、長期的な外来リハビリテーションには対応していません。しかし、もし入院治療をすることになった際には、私たちリハビリテーション科が、患者さんの「元氣になりたい」という気持ちに全力で応えることをお約束します。

病気やケガで入院された際は、ぜひリハビリテーション科にご相談ください。早期からの適切なリハビリテーションを通じて、再び「できる」喜びを取り戻し、自分らしい生活を送るための一歩を、共に踏み出しましょう。

千葉市立青葉病院リハビリテーション科

理学療法士	11名
作業療法士	8名
言語聴覚士	2名
リハビリテーション科医師	2名

取得資格一覧

日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医	1名
3学会合同呼吸療法認定士	7名
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士	1名
一般社団法人日本循環器学会心不全療養指導士	5名
日本理学療法士協会認定理学療法士（代謝）	1名
がんのリハビリテーション研修会終了者	21名
日本糖尿病療養指導士	1名
千葉県地域災害派遣医療チーム（CLDMAT）	2名
臨床実習指導者講習会修了者	13名
ICLSプロバイダーコース受講終了者	5名
医療クオリティマネージャー	1名

「登録医」のご紹介

滝トータルクリニック

住所:〒264-0035 千葉県千葉市若葉区東寺山町572-14 2F

TEL:043-287-2525

診療科:内科、外科、小児科、皮膚科、胃カメラ・大腸カメラ

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	●	●	●	/	●	★	/	/
9:30～12:30	●	▲	●	/	▲	★	/	/
14:30～18:30	●	●	●	/	●	/	/	/

▲完全予約制 ★★土曜午前9:00～13:00

※受付は最終時間30分前までになります。

内科・外科・小児科

月～土

皮膚科

月・水・土

休診日

木・日・祝

滝トータルクリニック院長の滝沢聡と申します。当院は、内科、外科、小児科、皮膚科、そして消化器内視鏡まで幅広い診療を提供し、予防から治療まで地域住民の皆様の健康を守るパートナーとして若葉区に開院いたしました。

県内の救急救命センターで救急医として研鑽を積む中で、患者様やご家族の思いに触れ医療の本質を学びました。厳しい現場での経験が私の医師としての土台となり、今は生まれ育った地域の皆様に最高の医療を提供することが私の情熱です。

当院では、風邪や生活習慣病の診療から専門性の高い内視鏡検査まで幅広く対応しております。苦痛の少ない胃・大腸カメラ検査を実施し、経鼻内視鏡や鎮静剤を用いた検査が可能です。また、皮膚科では最新医療機器のエキシマライトを導入しアトピー性皮膚炎や円形脱毛症などの治療も行っています。また、治療だけでなく健康診断や予防接種など

にも対応しておりますのでご相談ください。

これからも青葉病院の医師と連携をとり地域医療の発展に貢献できるよう、スタッフ一同、日々精進し、皆様の健康を守り笑顔を増やすお手伝いができるよう健康を支えてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



「登録医」とは、青葉病院では千葉市セミオープンシステムに登録していただいた地域の医療機関です。セミオープンシステムとは、紹介により千葉市立青葉病院に入院した患者さんについて、診察・記録の閲覧を行うことができるというシステムです。

